

自分のため？ 人のため？

～ 評論を手がかりに考えを深める ～

目標

●知識及び技能

理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (1)イ

意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 (2)ア

●思考力、判断力、表現力等

文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。 C(1)イ

文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見を持つことができる。 C(1)エ

●学びに向かう力、人間性等

言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

評価規準

●知識・技能

〔知技1〕 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。

〔知技2〕 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。

●思考・判断・表現

〔思判表1〕 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。

〔思判表2〕 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見を持っている。

●主体的に学習に取り組む態度

〔主1〕 進んで文章に表れている考えを吟味し、学習課題に沿って、自分の意見を持とうとしている。

指導案の概要

「受け取る『利他』」は、「利他とは何か」について考えを巡らせた評論である。評論とは、読者に対して新しいものの見方をもたらし、それを手がかりにして自身の考えを深めることを可能にするものである。一方で、これまで中学校で学習してきた説明的な文章に比べて抽象度が高いため、生徒は書かれている内容を頭では分かったつもりでも、実感を伴った理解には至らない可能性がある。

本単元では、筆者の考えを自身の経験に引きつけて考えたり、他の視点から批判的に捉えたりすることで、教材に対するより深い理解に到達することをねらう。また、台本作りという活動を通して、「利他」についてのさまざまな視点を獲得し、それらを手がかりにしながら自分の考えを形成・深化させることを目指す。

学習の流れ

時	学習活動	学習・指導の具体例	評価規準・評価方法
1	①本文を通読する。 ②筆者の考えを捉える。 ③具体例を考え、理解を深める。	- 音読や黙読、教師による範読など、クラスや生徒の状況に応じて選択する。 ※読み終わった生徒から語句の意味や用法を調べさせてもよい。 - 筆者による「利他」と「利己」の定義を確認し、それを踏まえて、筆者の考えを次の二点にまとめる。 (1)一見「利他的」であっても、それが「利己的」と見なされることもある。 (2)「利他的」であるかどうかは事後的にしか分からない。(受け取られたときに「利他」が生まれる。) - これまでの自分の経験を振り返り、筆者の考えに当てはまる具体例を考える。 発問例 筆者の考えに当てはまるような経験をこれまでにしたことがあるか、考えましょう。 ※グループで交流させたり、数名の生徒に発表させたりする。	知技1 (ノート) - 語句の意味や用法について調べ、理解しているかを確認する。 知技2 (観察・発言・ノート) - 筆者の考えを捉えているかを確認する。
2	①筆者の考えを批判的に検討し、自分の考えを形成する。 ②台本作りという課題の内容を確認する。 ③台本作りに取りかかる。	- 筆者の考えについてどう思うか、意見を交換する。 - 本文には書かれていない視点を考える。 発問例 「担任の先生」は筆者のけんかの出来事についてどう思っていたでしょうか。(「利他的」なことをしようと思って行動したのでしょうか。) 「利己的」に(特に「利他」を意識せずに)行動していたことが結果的に「利他」になっていた、というケースについて考える。 発問例 人は他人のために行動すべきなのでしょうか。それとも自分のために(特に他人のために意識せずに)行動すべきなのでしょうか。 ※中学生にはやや難しい内容にはなるが、「働く」という文脈で考えたときに、内田樹のウェブサイト「内田樹の研究室」の記事「人間はどうして労働するのか」(http://blog.tatsuru.com/2009/12/16_1005.html)が参考になる。 - ここまでの内容を踏まえて、次の課題に取り組む。 課題 何かしらの組織(学校、部活など)の中で、「人のために行動すべきか、自分のために行動すべきか」を悩んでいる主人公が、解決までの道筋を見出すまでのストーリーや場面を台本形式で書こう。 ※少なくとも3人以上の人物を登場させ、それぞれ異なる視点を持たせる。それ以外の設定は自由に決めてよい。 ※クラスや生徒の状況に応じて、条件(字数など)を設定するとよい。 - 台本の作成に取りかかる。 ※なかなか書きだせない生徒には声を掛けて助言をする。	思判表1 (観察・発言) 文章をもとに自分の考えを形成しているかを確認する。
3	①台本を仕上げる。	- 前時に続き台本作りを行い、本時では台本を完成させる。 ※可能な限り台本を書く時間を確保するようにする。 「受け取る『利他』」で学習した内容を、自分の台本にどのように生かしているかも併せて記述する。	主1 (観察・ノート) 台本作りを通して、文章で述べられている考えを吟味し、自分の意見を持とうとしているかを確認する。

4	①台本を互いに読み合う。 ②学習を振り返る。	●グループになって、執筆した台本を互いに読み合う。 ※コメントや感想を書くワークシートをいっしょに回す。 ※クラスや生徒の状況に応じて、発表させたり、役割分担を決めて演じさせたりしてもよい。 ●この単元を通して学習したことを振り返る。 発問例 台本作りを通して、「利他」についての自分の考えはどのように深まったでしょうか。	思判表 2 (観察・発言・ノート) ●学習した内容を踏まえて自分の考えを深めているかを確認する。
---	--------------------------------------	---	--